

## 平成 25 年度 第 1 回 新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時： 平成 26 年 5 月 30 日（金曜日） 15 時 ～ 17 時  
会 場： 新潟市北区郷土博物館 集会室  
出席委員： （会長）杉本耕一、（副会長）寺山知子、（委員）小黑 忠、月岡徳恵、  
高橋久隆、上松鉄雄、島吾郎、伊藤裕美子、田村祐一、鈴木 梢  
傍 聴 者： なし  
事 務 局： （博物館）宮崎芳春館長、神田直子、塩原賢信、曾部珠世  
（地域課）坂井靖彦課長  
資 料： 当日配布 <資料 1 ><資料 2 >

### 会議概要

#### 1 開会

##### 司会（塩原主査）

ただいまから平成 26 年度第 1 回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。  
本日は委員 10 名全員が出席され、会議は成立しています。  
傍聴はありません。

#### 2 あいさつ（協議会会長 杉本耕一氏）

本日は、委員のみなさま全員ご出席ということで、大変喜んでおります。さて今回は、平成 26 年度最初の協議会です。特に議事（2）「新常設展示の構成と内容について」が中心になると思います。昨年度末に開催された前回の協議会では、博物館の方から展示構成について二つの案が示されました。今回は、もう少し詳しい説明があると思いますので、みなさまから忌憚のないご意見を出していただきたいと思います。よろしく願い致します。

#### 3 委嘱状の交付、及びあいさつ（北区地域課長 坂井靖彦）

- ・新委員 田村祐一氏に委嘱状を交付
- ・あいさつ

みなさまにおかれましては、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。  
本日は、平成 26 年度第 1 回目の博物館協議会です。協議会は、通常、年に 2 回開催しておりますが、今年度は、常設展の全面的な展示替えという大きな事業がありますので、みなさまから何度かお集まりいただき、ご意見を頂戴しながら進めてきたいと思っております。よろしく願い致します。

#### 4 あいさつ（新任 田村祐一委員）

この 4 月に小針中学校から異動してまいりました光晴中学校校長の田村でございます。魚沼出身で、また新潟市内での勤務赴任の年数も短く、地域のことについてはまだよくわからないのですが、みなさまからご教示いただきながら務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願い致します。

## 5 委員紹介

### 司会（塩原）

- ・委員を紹介。
- ・（議事開始）では、これより議事進行を杉本会長にお願い致します。

## 6 議事

（杉本会長） では早速、議事に入ります。

まずは会議次第の議事（1）「平成 26 年度 新潟市北区郷土博物館事業計画」について、博物館から報告をお願いします。

### （1）平成 26 年度 新潟市北区郷土博物館事業計画について

<資料 1>平成 26 年度 3 月末発行の「博物館だより」の、pp. 10～11 に基づき、今年度の「企画展」「講座・教室ほか」「北区文化財保護事業」「北区郷土博物館常設展リニューアル（特色ある区づくり事業）」等の事業について、神田から報告。

（杉本会長） 今年度の事業報告について、ご質問やご意見はありますか。

（寺山副会長） 今年度の企画展は、現在開催中の「収蔵資料展 和本と学びの世界展」の後、小中学生のコンクールなどすべて恒例の公募展ばかりで寂しいような気がします。常設展リニューアルがあるので、お忙しいとは思いますが、なにか他に企画をすることはできないのでしょうか。

（宮崎館長） 常設展のリニューアルと一言で申しましても、そこに至るにはさまざまな業務があります。現在進めているような計画の作成、内装計画、といった直接的な準備業務と併行して、現在の展示物の撤収・整理、新たに展示する民具の移動があります。さらに工事が始まったらその対応も出てきます。ご存じのように当館は少ない人員体制で運営しておりますので人員的に厳しい上に、日程的にも、物理的（常設展示替え、工事に伴うスペースの確保など）にも大変厳しく、この上さらに新たな企画を考えて準備をして展覧会を行う余裕がないのが現状ですので、ご理解いただけますようお願い致します。

### （2）新常設展示の構成と内容について

（杉本会長） 新常設展示について館長から説明をお願いします。

（宮崎館長） 前回、案の一つとして提出した「常設展示室左半分の半円状の壁を撤去して矩形のスペースに戻す」計画は、現予算では到底実現できないことがわかりましたので、残念ですが断念せざるを得ませんでした。従って、今回お配りした<資料 2>の通り、現在の常設展示室の構造をそのままいかすということになります。

次の課題は、現在、松蔭の書作品を展示しているガラスケースのガラスの存在です。書や美術作品の展示では、作品保護のためガラスが必要と考えますが、民俗資料の展示で、資料と観覧者をガラス板で隔てることは、民具のもつ生活実感を減じてしまうのではないかと考えています。しかし、現予算では、このガラスの撤去や、部分的に加工したりする経費さえもが大きなウェイトを占めてしまうのです。

現時点では、松蔭の書作品を展示する壁面のみガラスを残すことを検討しています。またそのエリアは、基本的に壁面と床面は手を加えずに現状のままにし、民具のエリアは、ガラスを撤去するとともに、壁と床の材質と色を変えたいと思っています。それはまた、芸術作品のエリアと民具のエリアを分けるという意味でもよい効果を生むと思います。(引き続き、資料に基づいて具体的な展示構成と内容を説明する。)

(杉本会長) ではみなさまから活発なご意見をうかがいたいと思います。

(小黒委員) 弦巻松蔭の作品から北区の歴史と民俗の展示へと替えるという方針について、お話したいことがあります。展示案を拝見しましたが、松蔭の展示スペースが小さすぎます。このような小さなスペースで、しかもその両側に民具が並べられるという「こま切れ」のような展示では、松蔭の書のよさが全く伝わらない。そもそも松蔭作品をこの博物館で常設展示することになったのは、旧豊栄市時代の小川竹二市長との取り決めがあって実現したこと。おかげさまで、以来、新潟のみならず東京方面からも書道関係者が大勢来館しました。このような形で地元の書家の作品を博物館が収蔵し、大切にしているということが高く評価されるようになり、そのことがまた、竹内風聲所蔵の上田桑鳩の作品の収蔵へと繋がっていきました。この博物館は、このように実績を積み重ねて信頼を得てきているのです。それがこのリニューアルにより、途絶えてしまいます。納得がいきません。どうしても博物館での松蔭作品の常設展示をやめるというのであれば、どこか他に展示を続ける場所を確保するなどの対策はとれないものでしょうか。

(坂井課長) 当方でも、このリニューアル構想と併行して、松蔭作品をまとめて展示するスペースをいくつか検討しましたが、作品の保存環境・安全面においても不安な要素があり、結局、条件が合わずに断念したという経緯があります。「豊栄博物館」が「北区郷土博物館」となり、北区の歴史とくらしを展示する施設とすることについては、北区自治協議会からの意見書と、それに対する市長の回答(＜資料1＞「博物館だより」p.11)に基づくだけでなく、新潟市議会からの要請に答えてのことです。リニューアルによって松蔭先生の展示スペースは確かに小さくなりますが、今後のことについてはいろいろな可能性を模索していくということで、ご理解いただきたいと思います。

(宮崎館長) 来年は、弦巻松蔭の没後20年にあたりますので、特別展を開催する予定です。もちろんそれにとどまることなく、これからも定期的に松蔭をとりあげた企画展を開催し、紹介していきたいと考えています。

(杉本会長) では、新しい展示計画についてのご意見を頂戴したいと思います。

(上松委員) 現在、博物館で見られる映像は、古くて新鮮味がありません。最近、南浜地区では、地域の歴史研究グループが地域の歴史を扱った映像資料を独自に作りましたが、やはり映像は説得力がありますね。予算をかけて映像資料を作成し、常設でいつでも見られるようにしていただきたいですね。

(宮崎館長) 「博物館だより」p.11の事業計画の中にもありますが、このリニューアル事業は、3年計画「区づくり事業」として行うものです。映像コーナーの構成は、平成

27年度に予定しています。

(杉本会長) 展示スペースの関係で、限られた資料しか展示できないわけですから、映像資料は大いに活用していただきたいと思います。

(伊藤委員) 展示室が小さいので、展示物の少なさを映像資料で補うことは賛成です。展示のテーマごとの映像プログラムを作成してその場で見せると、見る人がイメージを膨らませることができるのでよいと思います。博物館を「情報センター」のような機能をもたせるとよいと思います。

(杉本会長) 展示についてのご意見はいかがでしょうか。

(寺山副会長) 現在「横井のふるさと資料館」に展示している船が、移動に耐えないのではないかとお聞きしましたが、船といってもいろいろあります。アンコ船とか蒸気船とか、現在は見ることでできない船の模型を作って展示してはどうでしょうか。

(島 委員) 展示についての私案を3つ考えてきました。

- ① 展示テーマが<阿賀北の大地と人々の暮らし>の名称についてのことです。「阿賀北」が示す地域は、現在の村上までが含まれます。また、今、若い人たちは「阿賀北」という言葉自体、知りません。「北区」とするのがよいのではないかと。
- ② 限られた予算、小さなスペースの中で、このプランは大賛成です。さらにその上で、博物館を地域の「情報センター」として、機能を拡張させることがよいのではないかと。博物館に行けば、(どこへ行けば何を見られるか、などの)北区の情報はすべて入手できるという機能です。
- ③ 常設展示で展示できない資料を公開する機会、テーマ設定できないものなどを特別展として企画してはどうか。来館者に期待感を持たせることに繋がります。

(宮崎館長) おっしゃる通り、常設展示で示せるものはごくわずかです。テーマ設定されている分野でも展示できない資料はたくさんあります。常設展示を補完し、そこで語りつくせないものを、企画展を設定することにより、公開していきたいと考えています。

(杉本会長) 島委員から「阿賀北」ではなく「北区」という名称の方がよいのでは、というご提案がありましたが、北区は行政上の区分であって、歴史的な意味での根拠はないわけですから、博物館としてはやはり「阿賀北」がふさわしいと私は思います。

(伊藤委員) 「北区」は、どこにでもある名称なので、この地域の独自性が伝わりにくいと思います。

(高橋委員) 「阿賀北」という言葉は今ではほとんど使われていませんで、私は逆に言葉としても残してほしいと思います。

(田村委員) リニューアル後の博物館は、小中学校の児童生徒が地域の歴史や暮らしに

ついでに学習の場として使用されていくことになると思います。地域の成り立ちにはそれなりの歴史的経緯があるはずで、「北区」としてしまうとそれが一掃されてしまい、歴史的背景が捉えにくくなるように思います。

(杉本会長) このことについては意見が出尽くしたようです。では、「情報発信」という機能について、島委員だけでなく、他の委員の方々からもご意見が出ていますが、館長はどのようにお考えでしょうか。

(宮崎館長) 一つには、3年目の平成28年度の計画にあります。展示解説ボランティアを募集したいと考えています。

(上松委員) 私が所属する「北宝隊」でも、博物館常設展示ガイドのボランティアについて検討しています。松浜地区では、中学生を対象に地域のガイドを育てています。

(宮崎館長) それは心強い限りです。

(月岡委員) 今まで、書作品(芸術)が常設にあり、その他に企画展で、書や美術の分野も継続してやられてきたわけですが、前回の協議会と今回、リニューアルのお話をうかがっていますと、博物館の活動において、今後、美術の分野は果たしてどうなっていくのだろうか、という不安と寂しさを感じます。

(宮崎館長) このリニューアルは、「常設展示」のことであって、博物館の活動内容が歴史・民俗一色になるわけではありません。書も美術も、これまで通り「企画展」でとりあげていくつもりです。郷土作家シリーズも継続して行っていきます。これからもご協力をお願い致します。

### (3) その他

(なし)

(杉本会長) これで議事を終了し、進行を博物館にお返しいたします。

### 司会(塩原主査)

委員のみなさまには、長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございました。

終了予定時刻になりましたので、これで閉会させていただきます。予定しておりました企画展「和本と学びの世界」の見学は、自由観覧とさせていただきます。お時間のご都合がよろしければ、どうぞゆっくりとご覧ください。本日は、お疲れさまでございました。